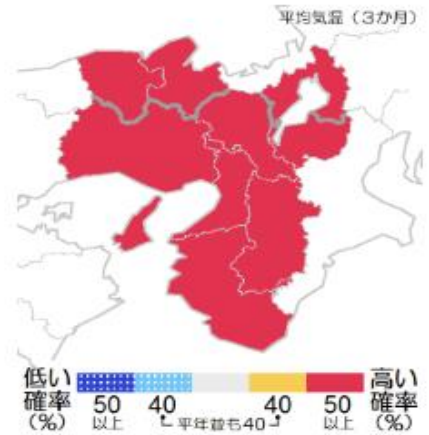


今年の夏も猛暑予報!! 暑熱対策の点検を

今年の夏の予報は？

- ◆気象庁の近畿地方 3か月(06月～08月)の天候の見通しは、暖かい空気に覆われやすいため、気温が高い見込みです。



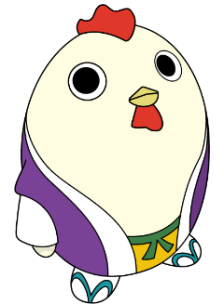
今年も、人にも鶏等にも過酷な夏！

- ◆WBGT(暑さ指数)28℃以上または気温31℃以上の環境で、1時間以上または1日4時間以上作業する職場での熱中症対策(早期発見体制の整備など)が義務化されました。
- ◆採卵鶏の最適温度は、13～25℃、肉用鶏は19～23℃で、**限界温度は、採卵鶏30～32℃、肉用鶏28℃**と言われています。それ以上になると飼料摂取量の減少、産卵率・卵重低下、増体量低下が起こります。

暑熱対策は？

◆鶏舎の暑熱対策

- ・屋根、壁への断熱材の利用、白色系塗料を塗布
- ・屋根にパイプ、スプリンクラーを付けて、散水
- ・寒冷紗により直射日光や、西日を遮断
- ・こまめに除糞を行い、鶏舎内の発酵熱を減らす。
- ・地上からの照り返し防止に、鶏舎周辺に植物を植える。



◆鶏体への対策

- ・扇風機、送風ダクトで送風
- ・細霧装置による噴霧冷却
- ・給餌は、朝は早期点灯により涼しい時間帯に、夕方はその日の最終給餌とする。
- ・新鮮な冷水の給与(ニップルドリンカーは末端を解放し水温を低く保つなど)
- ・ビタミンC、ミネラルを普段より多めに投与

◆緊急時の対策(35℃を超えたら)

- ・熱性多呼吸の徴候がひどい場合は、血液がアルカリ性になっているので、重曹を飼料・飲水に0.5～0.7%の割合で添加して給与
- ・送風を最大限とし、鶏体を冷却する。
- ・強い暑熱ストレスを受け改善しない場合は、直接鶏に水を掛けて冷やす。

台風、豪雨に備えましょう！

- ◆畜産施設は、損傷や倒壊を防ぐため、事前に点検し、必要に応じて補修等を行う。
- ◆畜産施設への浸水を避けるため、明渠の施工等により排水対策を行う。
- ◆停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等により対応できるよう努める。

*** 鶏等の異常や畜産施設に災害があったら直ちに当所まで連絡してください。**

京都府南丹家畜保健衛生所

南丹市八木町木原北東庄18

TEL:0771-42-3308 FAX:0771-42-5117